

男女別学教育シンポジウム開催

日本男女別学教育研究会は6月30日、品川女子学院講堂で「第3回 男女別学教育シンポジウム」を開催した。男女それぞれの特性を理解し、考慮して子どもを教育すればより良い成果を生む、という考え方に基くシンポジウムで、同研究会代表の中井俊巳氏の基調講演の他、私立中学・高等学校の校長ら6人が登壇してのパネルディスカッションが催された。司会は同志学園女子中・高等学校前校長の西川邦子氏。同学園理事の清水哲雄氏が開会のあいさつを述べた。



中井代表

基調講演は、教育評論家で同研究会代表の中井俊巳氏が「男女別の育て方・教え方」子どもは伸びる」と題して行った。中井氏はまず、日本の子どもは自己肯定感が極めて低いというデータを示し、その問題解決の糸口は、子どもが学校を好きになること、そして親をはじめとする大人たちもその学校の良い所を見つけてあげることだ、とした。その上で、男女別学校のメリットを挙げた。

「異性の目を気にせず個性を伸ばせる、男女ともに主役になれる、そして学力が向上しやすい」といった点だ。個性が伸ば



私立中高での授業の持ち方などが報告されたパネルディスカッション

せる明るい・楽しい環境に任せにしない」という説を行った。

また、この日は、男子校をこゝろ幅広く能力を開発したいという特性はまず成長のベクトルにも表れている。力の高さは別学校の大学入試の結果にも表れている。男女ともに主役にな進歩実績に表れている」と。女子は真面目な学習生活指導・学習指導がで

男女別の育て方、教え方で講演

パネル 男女別指導の要点 指摘

態度を取るが、男子は落着き、子どもはべんべん仲に30%以上はする」と諸成長する。そのため会社に着きがない。また、能ていく。男女別学教育 外国に約束している。将 訪問や聴講などのキャリアで一人の80年余りの人生 良い所の影響を受けてほ が行われている現状を踏 能力は男子が高い。P I いが、それを広めていき ず必要となる。今、指導 3年生からキャリア 人生を左右するよう な 桐光学園中高は設立か ができるメリットは大き 査でも読解力は女子 ンでは、實吉幹夫・東京 が二つある。好きな仕 考えることに重きを置 けり組みをしない、伸 び上校長は当時の経緯を振 やめた。上位も下位も 男子が高いという結果が 女子学園中学校高等学 事をしてきた『初めから 男子は企業から商品 のもも伸びない。男女 り返って語った。「新 たにクラスだと生徒同士 の出ている。ただ、科学的 長がコーディネーターを トップになるつもりでや をこなすことに熟中する とは、今後の私学におい て重宝だ」と述べた。だ だ、教員組織は分けてい 力を伸ばすこととなる」 という点はない。教え 長、今井真人・國學院久 サバントリーターと呼 授業では、例えば男子は は女子校だったが、平成 積したノウハウが女子が

「指導上、特に考慮し 述べて。そして「別学校ではこ 張した。「国の目標として 職場で指導的な立場 を説明した。「女子の方 が精神年齢が高く、早く い女子教育が必要」と主 に分けて教育を行ってい つ与えるようにしてい ちな個性が強くなっ だ」と述べた。

本郷中高の北原校長は 女子校で勤務経験があ 育が可能で、それが父 母に伝わり、それが中 学で「女子には習熟度別ク ラス分けは向かないのでは ないか。上位はいいが中 位下位を伸ばせないと いう実感がある」との問 断はあったが、公立小 学 断はあったが、公立小 学 断はあったが、公立小 学

原福二・本郷中学校高等 ではない特性を伸ばす には、男子は競争を、 女子は協力を好むとい うことを踏まえない。男 子校長、村上支樹、桐 光学園女子学院の校長 にはゲーム感覚の課題で 園中学校高等学 大さっぱなヒントを与え 人がパナリストとして、 て挑戦意欲を引き出す。 それぞれ男女別学につい ての考えを述べた。 女子にはドリル方式で細 かい指示を与え、安心感 を与えることだ」などと 述べた。 品川女子学院の漆校長 になった経緯があるが、 原くさんと入れられると 挫折 ける。別学は、男女い ずか一方がよいよう だ」と述べた。